

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立新市中央中学校	校長氏名	門田 剛年	生徒指導主事氏名	油谷 大輔
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会』

取組のねらい『キーワード：3つの心 』

「感動・感謝・思いやりの心」を体感させる取組にすること。
生徒主導型の体育大会にすること。

取組の具体的内容『キーワード：努力 あいさつ 協力 』

- ・努力を惜しまず、最後まで懸命に取り組む生徒
練習時間を提示（リーダー会で確認）し、その限られた中でリーダーが練習計画を立てて取り組む。
- ・競技・演技の前後に大きな声であいさつができる生徒
これからお互い（チームや相手）に頑張ろうという気持ちと、自分自身にやりきる気持ちを高揚させる。
- ・規律に基づいて競技・演技に参加し、協力して取り組む生徒
ルールを守り、正々堂々と競技させる。また、チームの作戦に合わせてやりきる。



取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダー 』

- ・リーダーの育成
3年生にとっては、前例のない（モデルがない）中での縦割りチームによる体育大会になった。しかし、3年生が引っ張らないとチームは動かないことや部活動の体験を生かすこと、得意分野を引き出すことなどを話しスタートをきった。
時間内で練習をやりきらなければならない事で、リーダーは練習方法や説明の仕方、並び方などを工夫し始める。また、入りにくい生徒への声かけを意識させた。
試行錯誤をしているところへ、教員の指導を入れながらリーダーを活躍させる。1・2年生のリーダーも実働させる。



取組の成果（効果）『キーワード：感動・感謝・思いやりの心 』

- ・解団式
閉会式後、チーム毎に別れ解団式を行った。リーダーが思いを述べる時間にした。殆どのリーダーは、「力不足だったけど、ありがとうございました。」という言葉を述べていた。本心から出る言葉に、チームの誰もが感動・感謝・思いやりの心があふれ出す瞬間になる。また、保護者の参観もある中で、感謝の言葉も出てきた。
リーダーの感想には、「まとめることの難しさ」、「やり切ったという達成感」が語られていた。1・2生のリーダーは、「3年リーダーの素晴らしさ」、「先輩の役に立てなかった」、「自分たちの時には先輩を超えたい」などの思いが多かった。リーダー以外の感想では、「楽しい体育大会だった。」、「来年は後輩たちを引っ張っていきたい」などが多かった。



感想

赤組実行委員

色別の応援合戦の練習で、リーダー同士の意見が違ったり、後輩が指示を聴いてくれないなどの苦労もありました。でも、本番ではいままでの練習とは違ってすごくいいものが出来ました。これらの体験を生かしていきたいです。



青組団長

僕は去年の組体操リーダーみたいになりたいと思って、軽い気持ちで団長になりました。予想をはるかに超える大変さでした。どうしたら上手く言えるか、上手く指示を出せるかが大変で、正直やめようと思いました。

でも、短時間でダンスを多くの方が覚えてくれてとても嬉しくなりました。その時始めて、頑張っ

て教えてきてよかったなと思いました。まだまだやることが多くあり、不安はぬぐいきれませんでした。リハーサルで上手く出来たとき、不安が吹っ飛びました。それからは、自信がつきみんなの行動も早くなりました。これも嬉しかったところです。

本番では優勝することが出来て、達成感と言うより、びっくりしすぎて気が抜けてしまいました。チームみんなのおかげです。ありがとう。

今 後 の 展 開『キーワード：新生徒会執行部 』

・縦割りチームの活用

縦割りでの体育大会は、異学年の交流があり仲間意識が高まった。しかし、縦割りを活用することが出来ていない。新執行部員と来年度の縦割りの活用方法を考えていきたい。



他校へのアドバイス『キーワード：生徒の力 』

・生徒の活躍

昨年度は、落ち着かない生徒の様子から、リーダーがなかなか思い通り動けなかった。今年度は、昨年度よりリーダーの数を増やした。それぞれの活躍の場が増えたことや３年生としての自覚が、リーダー性を発揮できた要因だと考える。

やりたい気持ちの強い生徒に任せるだけでは上手くいかないの、必ず教師の指導を入れ活躍させることが大切だと考える。

今年度の３年生は、昨年落ち着きがなくて出来ないかもしないと思っていたが、予想以上の出来にやりきってくれた。

